

4月23日に本校6年生を対象に実施した「全国学力調査」についての結果がまとまりました。本調査は、国語・算数のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、その結果の概要と本校の児童の状況をお伝えします。



総合結果（国語・算数）

本校の平均正答率は、国語、算数ともに全国平均を上回りました。特に国語は +4P 上回る結果となりました。算数に関しては、全国平均とほぼ同等の正答率でした。どの教科でも、基礎学力が定着していることが伺えます。



国語科より



全国の平均点を4P上回りました。特に差が大きかったのが、「(読むこと) 目的に応じて、必要な情報を見つける問題」や「(読むこと) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題」でした。「読む」内容の問題に関しては、抵抗なく問題と向き合うことができています。日々の取組の姿勢がそのまま正答率の高さとなって表れています。さらに、「話す・聞くこと」「書くこと」内容の問題でも高い正答率を得ました。その中でも、「(話す・聞くこと) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題」や「(書くこと) 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題」が特に正答率が高かったです。普段から、国語科の授業だけではなく、その他の教科でも、自分の考えを話し方を工夫して伝えたり、学習問題に対して、自分が考えたことを相手に伝えるために構成を意識して文章で表現したりすることができている証拠です。

その一方で、「比喩や反復などの表現の工夫に気づく問題」や「考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解する問題」、「話や文章の種類とその特徴について理解する問題」は、全国平均を下回っていました。これは、「知識・理解」の内容の問題です。これからは今まで以上に、様々な文章表現の工夫を獲得できるように工夫したり、理由と事例を繋げながら文章を整理したり、様々な文章形態の構成を知る機会を設けたりしながら、国語科の「知識・理解」の資質能力向上に努めていきたいです。

算数科より



全国の平均点とほぼ同等の正答率でした。その中でも、大きく上回っていたのは「測定」、「データの活用」の領域です。「(測定・数と計算) 示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求める問題」や「(データの活用) 2次元の表から、条件に合う数を読み取る問題」、「(データの活用) 帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取る問題」の3つの問題は、平均を大きく上回っていました。その他、「数と計算」の領域の中の「数を四捨五入して、概数で表す問題」や「単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉える問題」でも平均を上回る結果となりました。日頃からの積重ねが、子どもたちの力を育むということを再認識しました。

その一方で、「数と計算」の領域の「整数と少数の減法の計算をする問題」や「日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の3つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述する問題」では、平均点を下回る結果となりました。また「変化と関係」の領域の、「百分率で表された割合と比較量から、基準量を求める問題」や、「基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶ問題」は、平均点との差が大きかったです。この実態を踏まえて、平均点を下回った領域の問題を意識的に取り上げ、放課後の時間や宿題等で、復習をしていきたいと思っています。

児童質問紙調査から



Q 先生は、あなたのよいところを認めていますか？

この質問に対して、「当てはまる。」と答えた児童の比率が非常に高い傾向にあります。これからも、子どもたちの良さを存分に認めながら、家庭や地域の繋がりを大切にして、子どもたちとの信頼関係を築いていきたいと思っています。

Q 学校に行くのは楽しいと思いますか？

この質問に対して、「当てはまる。」「どちらかといえば当てはまる。」と答えた児童の比率が89%でした。これからも子どもたちが、安心をして学校生活が送れるように見守ってきたいと思います。



保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。子どもが自己の将来の生き方を見据え、学校での学びと社会とのつながりや、わかる喜びと学び合う楽しさを実感できる授業を目指し、常に効果的な指導方法や指導体制の工夫改善を図るとともに、すべての児童の可能性を最大限に伸ばす視点を大切にして、今後も取組を進めてまいります。さらに、ご家庭と連携して進めていきますよう、励ましの声かけなどをお願いいたします。引き続き、ご家庭での子どもに対する積極的で温かな関わりや指導・支援をよろしく願います。